

# No.2 Pinky's Thoughts



## どうしてそんなにキティーちゃんが好きなの？

People often ask me, "Why do you love Hello Kitty?" Well, I first discovered Hello Kitty when I was 6. I had a washcloth that was the shape of Kitty's head. I thought it was the coolest thing ever because her bow, which was normally pink, turned blue in hot water! I think that was the moment I realized that she is one cool cat. However, it wasn't until I moved to Kagoshima in 2004 that Hello Kitty became somewhat of an obsession! One of my Japanese friends told me that almost every village, town and city in Japan has something that they are famous for. I thought that was really interesting because we don't have the same thing in Canada (although we do have many sculptures of random things that are the "World's Largest!") My friend also introduced me to Gotouchi Kitty and instantly, I was in love! For me, collecting Kitty cell phone charms is synonymous with experiencing Japan – for every new place I discover, I buy a Hello Kitty to remember it by. I now have over 200 and I hope that I'll be able to explore many more places and keep my collection growing!

「どうしてそんなにキティーちゃんが好きなの？」とよく聞かれます。ハローキティーに出会ったのは、6歳の時です。キティーちゃんの顔の形のタオルを持っていました。ピンク色のリボンが熱いお湯に入れると青くなる、というのがとにかく最高にかっこいい、と思ったのです。その時が「キティーって格好いい猫だ」と気づいた瞬間です。それからさらにハローキティーにとりつかれたのは、2004年に鹿児島に引っ越してからです。友だちが「日本にはどの市町村にも名物がある」と教えてくれました。カナダにはそういうものはありませんから、とてもおもしろいと思いました（もっとも散発的に「世界最大」を誇る彫刻などというものがあることはあります）。またご当地キティーなるものがあることも知りました。これには速攻で恋に落ちました。私にとって、キティーちゃんの携帯ストラップを集めることは、まさに日本を体験すること。新しい日本に出合ったら、記念にキティーを買います。コレクションは今や200以上になりますが、これからもさらに新しい土地を発掘し、コレクションを充実させたい、と願っています。

(訳：宮地晶子)

### 【ちょっと豆知識】 宮地晶子

上の文中にcell phone charms (携帯ストラップ) という言葉が出てきました。国内では大流行のこのストラップですが、カナダにはあまりありません。そもそも携帯電話にそのための輪がついていないそうです。ただし携帯電話そのものを入れるケースはいろいろ選べるそうです。さて、charmという単語ですが、これは小さな飾り物を表す言葉です。日本人の大好きなお守り、これはlucky charmsとかgood luck charmsと言います。

今年の夏、カナダに行きました。英語圏に行くのは久しぶりです。聞く気はなくても、あらゆる会話が耳に入ってきます。お店で小さな男の子がお母さんにグミをおねだりしている会話なんて、ほほえましくて楽しい。道を歩いていても会話の断片がどんどん耳に入ってきます。

ふと日本の昔話「聞き耳ずきん」を思い出しました。そう、「動物の話が聞き取れるずきんを拾ったおじいさんが大金持ちになる」というお話です。英語が聞き取れるという話は、まるで聞き耳ずきんをかぶっているようなものだ、と思った次第。

聞き耳ずきんは実在しないけれど、英語の聞こえる

英語教育指導員 宮地晶子の  
**エイゴのマナビカタ**

第74回  
**聞き耳ずきん**

耳は自分で作れません。留学するならば、耳は日本で作っておきましょう。行ってから疎外感を味わわなくて済みます。どうやったらリスニング力がつくのでしょうか。私の場合は、高校のとき英会話スクールに通い始め、大学でも英語を専攻しましたから、リスニングのインプットはかなり蓄積があったと思います。

でも当時、講師はほとんど日本人でした。今から考えても発音が日本人的でした。私が飛躍的に伸びたのは、自分が教え出してからです。

当時はバブル全盛期で海外旅行と英会話ブーム。毎日ひたすら初級英会話のテキストを教えました。目で見たらとても簡単な会話です。自分が「これをやれ」と言われていたら多分一度しかやらなかったでしょう。でも仕事です。暗記するほど聞き、発音しました。どうやらこれが決定打となつて自分には聞き耳ずきんが授かったらしい、と今は思っています。次回は聞き取りを伸ばすためにどんなことができるかをお話します。